

京都府戦略的地震防災対策推進部会の開催結果概要について

1 開催日時

平成28年4月26日（火） 午前10時00分～12時10分

2 場所

京都府職員福利厚生センター3階 第1会議室

3 出席委員

牧部会長、明致委員、窪田委員

4 議事等の概要

事務局から説明を聴取し、委員間で議論を行った。概要は次のとおり。

【報告事項】

(1) 京都府津波浸水想定の設定等について

<委員からの主な意見>

- 主に沿岸部の住民を対象として、注意喚起のために浸水想定概要について情報提供を行うことが必要である。
- 津波浸水想定では、どの場所まで、何分で津波が来るか把握することが重要。
- 今後、人的被害・建物被害の被害想定や、対策の効果について検討することが必要だろう。

(2) 京都府建築物耐震改修促進計画の改定について

<委員からの主な意見>

- 借家については、賃貸サイドから耐震改修を促進する取組も必要だろう。
- 耐震性のない住居に居住する高齢者に、耐震診断・移住といった対策を提案することは、選択肢が広がることになり望ましい。
- セミナー・講習会・出前講座等で、耐震改修の啓発を進めて欲しい。その際、耐震改修工事以外の対策（寝ているところに倒れる物を置かない等）についても啓発してはどうか。
- 関係部局で連携して啓発を進めること。
- 熊本地震の発生を受け関心が高いと思われるため、多くの人が耐震診断を受けられるようにすべきである。

【議事】

(1) 第二次京都府戦略的地震防災対策指針及び推進プランの改定について

- ※ 事務局案のとおり修正を承認

(2) 第二次京都府戦略的地震防災対策推進プランの進捗について

<委員からの主な意見>

- 数値目標を設け、評価を見やすく一覧として整理し、改善をはかっていくことは、評価制度としては効果的である。これからも続けること。
- 進捗状況の確認において、いつ取組を開始するかを考慮に入れたらどうか。
- 担当部局の自己評価を元に、事務局と協議しコンセンサスを得て進捗状況をチェ

ックするプロセスが重要である。

- 大学に関しては、学生に被害が出た場合のインパクトや、京都の「大学」というイメージへの影響も大きく、重要な課題である。数値目標を設けることや、京都BCPの取組を大学へも広げていくことは望ましい。

(3) 平成28年熊本地震について

<委員からの主な意見>

- 今回の地震の特徴は、短期間に震度7の地震が2回も起こったことである。想定外であり、1回目では壊れなかった建物が2回目で壊れている。

[車中泊避難について]

- 車中泊避難は、阪神大震災、中越地震でも問題となった。余震への恐怖やプライバシー・快適さの問題などから車中避難を選ぶのであり、禁止することは難しい。
- 駐車場所について、避難所として登録したり、支援する期間を決める等により、行政が関わる必要がある。
- 避難所以外での車中泊避難は、自主運営を基本とし、地域で名簿の整備や必要な物資のとりまとめを行うなどして、行政に報告を行うことで対応できないか。
- キャンピングカーの利用やRVパーク、道の駅への避難を検討し、協定を締結してはどうか。

[その他]

- 道路が寸断された場合、鉄板などで応急措置をして物資を搬入する対策が必要である。
- 健康面での対策が必要である。
- 避難者が早期に帰宅できるよう、応急危険度判定をしっかりと行う必要がある。
- 京都BCPの推進に当たって、京都府に本社を置く企業には、サプライチェーンの観点から、全国の関連事業所が被災した場合を含めて事業継続できるようしっかりと取り組んで欲しい。